

# 制御棒落下で自動停止か

## 高浜4号機 装置不具合? 調査継続

関西電力高浜原発4号機(福井県高浜町、出力87万キロワット)が1月30日に自動停止した問題で、関電は15日、核分裂反応を抑える「制御棒」が落下し原子炉内に挿入され停止した可能性が高いと発表した。制御棒を動かす装置に不具合がなかったか引き続き調べる。

高浜4号機は、自動停止後、調査で装置の電源を切り替えると、本来作動するべき制御棒とは別の2本が炉内に一部挿入される不具合が起きたという。

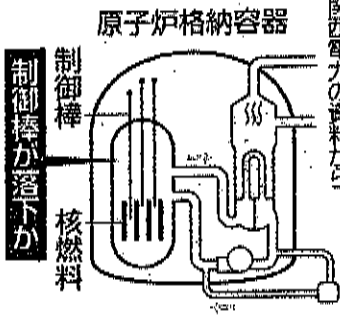
少なくとも1本が落下したと考えられるという。関電は中性子検出器の不具合や職員による操作ミスの可能性はないとしており、制御棒関連の電気系統の問題がなかったか調査している。

制御棒は48本あり、それぞれ上と下の「ラッチ」と呼ばれる電動の爪で保持されている。関電によると、4号機では自動停止するまでに、制御棒を動かす装置の故障を示す警報が3回出て、ラッチを働かせるための電流が通常より低く

自動停止時には核分裂で出る中性子の急減が検出されていた。データを解析したところ、制御棒のうち少

関電は14日に調査の途中経過を原子力規制委員会に報告した。規制委は、関電

関西電力高浜原発4号機  
自動停止した時の炉内のイメージ  
関西電力の資料から



に改めて公開の場での説明を求めている。